

## 第 35 回 100 年史誌部会 議事録

日時: 2009 年 3 月 24 日(火) 16 時 00 分～17 時 30 分

場所: 管理棟 2 階 第二応接室

出席者: 横山孝男部会長、栗野宏、松田則男、大町竜哉、小山明夫、新関久一、神戸士郎、奥山澄夫、高畑保之、鈴木清一、片山維子、山崎洋一郎各委員、小室秀一編集局員、斎藤ひろみ編集補助員、細谷朋宏氏((株)ぎょうせい)

欠席者: 小池邦博委員

### 【配布資料】

- [資料 35-1] 100 周年記念誌(Journal) 第 35 回 部会資料 2009 年 3 月 24 日
- [資料 35-2] 『百人の声』20 年後の工学部について考える
- [資料 35-3] 生体センシング「百人の声」原稿執筆依頼の報告(3/23 現在)
- [資料 35-4] 物質化学工学 百人の声 執筆依頼候補者リスト
- [資料 35-5] 「山大工学部 100 周年記念誌」(Journal)掲載の具体的事例(物質化学工学)
- [資料 35-6] 情報科学科「百人の声」執筆候補者 (2/24)
- [資料 35-7] 「最先端ラボラトリー」の取材撮影について(21.3.24 会議資料)
- [資料 35-8] Topic-現代山大工学部事情 OCT は医工連携のシンボル
- [資料 35-9] 機械システム工学科 部局史 進捗状況報告
- [資料 35-10] 山形大学工学部百年史編集局—今月の話題—成田嘉太
- [資料 35-11] 戦後資料収集と整理
- [資料 35-12] 第 2 章 米沢高等工業学校創立と拡充 1902(明治 35)年～1927(昭和 2)年

### D) 協議事項

#### 1. 100 周年記念誌

##### (1) 「百人の声」原稿執筆依頼報告の件

- ・ 松田 J 班長から資料 35-1 に基づき報告があった。電気電子工学分野の松下教授から原稿が寄せられた(資料 35-2)。
- ・ 神戸委員から資料 35-3 に基づき報告があった。14 名のリストから 11 名に連絡し、2 名から辞退の返事が来た。まだ返信が無い方も多い。10 名に満たない場合は研究室から OB を推薦していただく予定。推薦が無い場合は研究室の教員に執筆依頼をしたい。
- ・ 高畑から資料 35-4 に基づき報告があった。OB 名簿からリストアップした。応用化学出身と化学工学出身、工短出身、年齢、勤務地、居住地、男女、年齢、職業など偏らないように選定し 13 名のリストができた。辞退も考えられ、時間も押し迫っているので、このリスト全員に執筆依頼をしたい。
- ・ 小山委員から電気電子工学・情報工学、応用生命システム工学分野について資料 35-6 に基づき報告があった。遠藤恒夫氏は辞退。柳田裕隆先生も辞退。ただし柳田先生が加藤正治先生を推薦し、加藤先生は引き受けてくださることになった。また、電情系 20 名の内訳として電気電子 7 名、情報 7 名、応用生命 6 名で構成することとした。
- ・ 奥山委員から最近会った 30 代の OB 3 人に話をもちかけた。また広瀬先生が執筆を引き受けてくださることになった。あとの 4 人は検討中である。

##### (2) 記念誌に掲載する具体的事例の選定の件

- ・ 栗野委員から学科長に相談したところ、最先端ラボラトリーに関して若い順に 16 人選んでみてはどうかということになった。3 月 25 日の学科会議で提案したいと思う。
- ・ 高畑から資料 35-5 に基づき報告があった。この資料を 3 月 25 日の学科会議で提案し、意見を収集したいと思う。
- ・ 大町委員から学科会議で発案したが、全く反応が無いとの報告がなされた。高橋一郎先生の研究を最先端ラボラトリーに提案したい
- ・ 新関委員(応用生命システム)から来週の学科会議で提案したいとの回答があった。
- ・ 大町委員から理系ガールズはキャリアサービスセンターのプロジェクトであったので、志

村先生に何うのが良いとの意見が出された。

- ・ 山崎委員から工業会に関しては現在リストアップ中であるとの回答があった。

### (3) 記念誌進捗状況

- ・ 生体センシング機能工学専攻・佐藤学研究室取材の件に関して(株)ぎょうせい・細谷氏から説明があった。最先端ラボラトリーとして佐藤学先生を尋ねて、30分ほどのインタビュー分を行った後、写真撮影をし、資料 35-8 に示すような紙面が構成できた。佐藤先生からは丹野先生の業績にも配慮して欲しい旨、要望が出されたので、記事に組み入れた。
- ・ 「最先端ラボラトリー」の取材ならびに撮影の流れを 35-7 に示した。太字を部会員にお願いしたいとの要望が出された。
- ・ 「最先端ラボラトリー」に関して小山委員から学科紹介のパンフレットの先生でも良いだろうとの意見が打さされた。
- ・ 山崎委員から「モバイルキッズ」や「少年少女発明塾」について情報の提供があった。
- ・ 大町委員から水戸部先生が小学生相手に土曜日 10 回くらいのスケジュールでロボット講座を開催しているとの情報の提供があった。
- ・ 栗野委員から留学生が写真に入っているのはとても良い、どこの国かわかるようにすれば更に良くなるとのコメントが出された。
- ・ 横山部会長から丹野直弘先生のポートレートを入れたら良いだろうとの提案が出された。
- ・ 松田委員から工学部で出す雑誌に内部の教員に「先生」とつけることに違和感があるとの意見が出された。それに対して「教授 丹野直弘」「佐藤教授、丹野元教授」といった職名で表記するのが良い、「先生」という表記でも特に問題は無い、などの意見が出された。敬称の取り扱いに関しては次回の部会までの宿題とすることにした

## 2. 百年史

### (1) 部局史の進捗状況の件

- ・ 大町委員から 資料 35-9 に基づき報告があった。
- ・ 目次案に執筆者を割り振る作業を行っている。これから執筆依頼を行うが、依頼にあたり文章量の目安を教えて欲しいとの要望が出された。
- ・ 横山部会長から 400 字 4~5 枚で 1 ページになる。百年史は B5 版で組む。概略史で 5~10 枚くらいになるだろう、との回答があった。
- ・ 大町委員から機械システム工学の部局史としてトータルの枚数を教えて欲しいとの要望が出される。
- ・ 横山部会長から 1 部局あたり 10 ページを目標にして欲しい。18,600 字くらいだろうとの回答があった。
- ・ 小室編集局員から基本的には 1 ページあたり 1,548 字になる。執筆要項を参照されたい。とのコメントがあった。
- ・ 小山委員から最初はページの制限は無かったとの意見が出され、10 ページは目安と考えて良いかとの質問が出された。
- ・ 横山部会長は、10 ページは目安であるとの考えて良いとの考えを示した。
- ・ 小室編集局員から新しい学科は 10 ページを書くのも大変ではないかとの意見が出された。
- ・ これに対して横山部会長は、目安がなければ書きにくければ 10 ページということである。あくまでも目安として考えて欲しい、との考えを示した。
- ・ 神戸委員から、生体センシング機能工学専攻 13 年の歴史を 6 部構成でまとめた第一稿が、昨日完成したとの報告があった。執筆は昨年(2008 年)の前期に 7 名に分担してお願いした。実際のところは執筆依頼した 7 名中の 5 名から原稿を頂いた。残りの 2 名の割当箇所は神戸委員が執筆し、23 日に第一稿が完成した。
- ・ 一人約 1000 字程度、トータル 7000 字くらいになった。おおよそ依頼した量よりも 2~3 割増で書いてくる。その結果、9500 字程度(6 ページくらい)になった。
- ・ 様々な人が書くため、ストーリーの整合性に問題が生じている。内容が分析的であったり、批判的であったりする方がいる一方で、明るい未来を展望する人もおり、色々な思想が混沌と混ざり合っている。これから部局史を編纂される方は機械システム工学の「明るい未

来を展望する」のような編纂方針を明確にした方が良いと考えられる。

- ・ 時系列にも問題が生じることがあった。部局史の中で年表を作成したほうが良いと考える。特に教職員の出入りを年表に記述することで有用な執筆の資料になると考える。
  - ・ 小山委員から電情系に関する経過報告があった。
  - ・ 12名に依頼。6名から原稿が戻っている。
  - ・ 大正11年から昭和58年3月までの内容については50年史、80年史を参考に編集委員で分担して書くことにする。
  - ・ 昭和58年4月以降の執筆者は、学科長や学科教員および退職者に依頼済みである。
  - ・ 9月完成を目指す
- 
- ・ 横山部会長から全体の進行状況がわかるような資料を作成したいとの提案がなされ、情報を栗野先生に集約することになった。

### 3. 資料編纂

#### (1) 今月の話題

- ・ 今回の執筆は応用化学科昭和33年卒業の成田嘉太さんの寄稿。

#### (2) 戦後収集資料と整理

- ・ 小室編集局員から資料35-11に基づき戦後の資料について報告があった。
- ・ 新制大学以後は資料がばらつき、希薄になっている。文部省の介入があったのかもしれない。現在、教授会資料の洗い出し作業を行っている。
- ・ 文部省の16,000人の技術者養成の政策に基づき、学科の拡充・新設が行われた。応用電子工学科の新設計画が昭和33年に、増設の申請が昭和34年に対しても、精密工学科が昭和35年に設置されることなどが注目される。
- ・ 現在統計的資料の整理について高等工業時代はわかるが、新制大学以後は学科人数等がわからなくなっている。現在、年報や便覧を見て流れを作っている。しかし、工学部だけの教員数がわからない。

#### (3) 通史執筆例

- ・ 小室編集局員から通史の執筆例として資料35-12の提示があった。
- ・ 小山委員から、執筆例について英文字は全角か半角の質問があった。
- ・ 数字については1桁は全角、2桁以上は半角で記述することになっているが英語については取り決めがなかったが、とりあえず「Aコース」、「Bコース」は全角で記載することとなった。
- ・ 山崎委員から工業会誌の割付は見にくい、この原稿は見易いとのコメントがあった。
- ・ 小室委員から本原稿は10ptで組んでいるので見易いのもかもしれない。実際には9ptで版を組むことになるだろうとの説明があった。

## II) 報告 & 連絡事項

### 1. 実行委員会報告

- (1) 本部会員の業績評価に関して、執筆分の論文業績としての評価はできないが社会貢献として評価する旨、回答があった。
- (2) 記念式典部会から9月に開催される記念公開フォーラムにて資料(特に写真などの)提供について照会があった。ウェブで公開しているものも含めて利用可能と回答している。
- (3) 片山委員が退職されることになったが、引き続き部会に参加していただくことになった。
- (4) 渡辺克巳先生にも部会の編集に入っていただくことになった。

## III) 次回の会議について

- (1) 次回は4月28日(火)16時10分から 第1応接室(予定)

2009年4月14日